

発達障害のキモチ～専門家指導研修から～

発達障害について

- ・「発達障害」はどんな困難が表に現れているかで診断する。内側にある「不変の特性」の有無ではない。
- ・「発達特性」×「環境」⇒「問題行動」となるときがある。
- ・環境や対応の工夫によって、様子が変わる。



- ◎「発達特性」のせいにはせず、「なんでその子がそんなことをしたのか」を考える。
- ◎ダメなところを指摘しても良くならない。子供の特性や個性を理解し、工夫してうまくいく仕組みを作ることが大切。

<発達特性の例>

- ・こだわり
- ・かんしゃく
- ・空気が読めない
- ・「初めて」が苦手
- ・感覚過敏
- ・情報整理ができない
- ・落ち着きがない
- ・見通しがもてない
- ・話を聞いていない
- ・気が散る
- ・集中力がない
- ・物をなくす
- ・忘れやすい



基準の違う情報の優先順位付けが苦手

お湯が沸いた
⇒火を消す

雨が降ってきた
⇒洗濯物を
取り込む

どれから取り組んだら
よいかわからない！

ネコがじゃれてきた
⇒相手をする

チャイムが鳴った
⇒ドアを開ける

機能が効きすぎたり効かなかったりする

- ・思いついた行動の抑制ができない（ブレーキ）
- ・報酬までに時間があると、やる気が出ない（アクセル）
- ・時間の管理が苦手（タイマー）

大人が想像しているより
はるかに苦痛を感じている！

大人が想像しているより
はるかに気付いていない
ことが多い！

<対応>

- ◎環境調整をする（静か、質素、クールダウンの場合）
- ◎見通しを提示する（予告、予習）←安心安全の提供
- ◎具体的に伝える
- ◎目に見えないものを「見える化」する（絵カードなど）
- ◎即時に褒める（認める）→失敗からは学べない！
- ◎特性を活かす（動いてよい状況を作るなど）
- ◎物理的・作業的に整理するしかけ・仕組みを作る
 - ・リマインダー（メモなど）
 - ・固定化（置き場を決める、ルーチン化する）
 - ・便利グッズ（チェーン、bag in bag など）



参考：「発達障害のキモチ」初川久美子先生
講演内容より抜粋